

公開実用 昭和62-7686

⑥

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62-7686

⑬ Int. Cl.

G 11 B 23/087

識別記号

庁内整理番号

A-7177-5D

⑭ 公開 昭和62年(1987)1月17日

審査請求 未請求 (全頁)

⑮ 考案の名称 テープカセットのローディング機構

⑯ 実 願 昭60-99428

⑰ 出 願 昭60(1985)6月29日

⑱ 考 案 者 浅 見 克 夫 大阪市北区梅田1丁目8番17号 日本電気ホームエレクト

⑲ 出 願 人 日本電気ホームエレクトロニクス株式会社内
大阪府大阪市北区梅田1丁目8番17号

⑳ 代 理 人 弁理士 島 田 登

公開実用 昭和62-7686

明 細 書

1. 考案の名称

テープカセットのローディング機構

2. 実用新案登録請求の範囲

偏平な矩形状の箱体内にテープが収納されたテープカセットが、唯一の一定幅を越える面取りが施された縁を、前面上縁として挿入されたときに、所期のローディングがなされるようにしたテープカセットのローディング機構であつて、テープカセットの挿入口内の天板のほぼ中央部に枢支され、常時は、挿入されたテープカセットの前面上縁部の進入軌跡中に待機しており、前記面取りが施された縁については係止せず、他の縁については係止して誤挿入を防止する誤挿入防止爪を設けてなるテープカセットのローディング機構。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この考案は、テープカセットの誤挿入を、簡単かつ確実に防止できるようにしたテープカセットのローディング機構に関する。

〔背景技術〕

ビデオテープを収納するテープカセットは、偏平な矩形箱状をなし、ビデオテープレコーダのカセット挿入口に対し、正規の方向に挿入する必要がある。そして、ビデオカセットの前後や裏表を間違えたような、いわゆる誤挿入に対しては、テープカセットの誤挿入を途中で喰い止める誤挿入防止機構が必要であり、この種の誤挿入防止機構は、テープカセットのローディング機構に欠かさないものとなっている。

〔考案が解決しようとする問題点〕

上記従来のテープカセットのローディング機構は、誤挿入防止機構が、テープカセットの前後誤りにもとづく誤挿入と裏表誤りにもとづく誤挿入に対して、別個の誤挿入防止部材を用いなければならず、部品点数も多い上、構成が複雑化しやすく、組立にも時間を要する等の問題点があつた。

〔問題点を解決するための手段〕

この考案は、上記問題点を解決したものであり、偏平な矩形状の箱体内にテープが収納されたテ

公開実用 昭和62-7686

プカセットが、唯一の一定幅を越える面取りが施された縁を、前面上縁として挿入されたときに、所期のローディングがなされるようにしたテープカセットのローディング機構であつて、テープカセットの挿入口内の天板のほぼ中央部に枢支され、常時は、挿入されたテープカセットの前面上縁部の進入軌跡中に待機しており、前記面取りが施された縁については係止せず、他の縁については係止して誤挿入を防止する誤挿入防止爪を設けた構成としたことを要旨とするものである。

〔作用〕

この考案は、テープカセットの挿入口の天板のほぼ中央部に枢支した誤挿入防止爪が、常時は、挿入されたテープカセットの前面上縁部の進入軌跡中に待機しており、テープカセットに形成された唯一所定幅を越える面取りが施された縁には係止せず、他の縁については係止して誤挿入を防止する。

〔実施例〕

以下、この考案の実施例について、第1、2図

を参照して説明する。第 1, 2 図は、それぞれこの考案のテープカセットのローディング機構の一実施例を示す概略斜視図及び要部側面図である。

第 1 図中、テープカセットのローディング機構 1 は、カセットホルダ 1 a の案内空間を形成するカセットハウス 2 の、天板 2 a の左右のほぼ中央部で、かつ前縁部寄りの位置に、テープカセット 3 が正規に挿入されたときにのみ、テープカセット 3 の進入を許容し、誤挿入を防止する誤挿入防止爪 4 を枢支したものである。この誤挿入防止爪 4 は、支軸 5 を中心にテープカセット 3 の進入軌跡と交叉する揺動軌跡を有しており、通常は、ばね 6 に附勢されテープカセット 3 の進入軌跡内に進入しており、この状態では、誤挿入防止爪 4 の後端部が天板 2 a の下面に当接係止されている。

ところで、誤挿入防止爪 4 の先端部は、第 2 図に示す如く、瘤状に突出する案内部 4 a の付け根に、逆 L 字形状の直角段部 4 b が形成されており、この直角段部 4 b の段差 h が、テープカセット 3 の前面上縁の面取り部 3 a の幅 t よりも小さ

公開実用 昭和62-7686

く、前面上縁を除く他の縁のR部分の幅 d よりも大に設定してある。

このため、テープカセット3を正規に挿入した場合には、テープカセット3の前面上縁の面取り部3aが、誤挿入防止爪4の直角段部4bに当接係止することではなく、従つてテープカセット3は誤挿入防止爪4を下から押し上げ、カセット装着位置まで進入することができる。

これに対し、例えばテープカセット3の裏表を間違えて挿入してしまった場合、テープカセット3の前面上縁部以外の縁のR部分が、前面上縁を形成して挿入されるため、このR部分がかならず誤挿入防止爪4の直角段部4bに当接係止される。従つて、R部分が直角段部4bに当接係止された位置以上にはテープカセット3を挿入できず、これにより裏表の間違いにもとづく誤挿入が防止される。

また、前後の間違いにもとづく誤挿入についても、裏表の間違いにもとづく誤挿入同様、確実に防止することができる。

さらに、テープカセット 3 の短辺側を先頭にした誤挿入に対しても、誤挿入防止爪 4 の直角段部 4 b による R 部分の係止により誤挿入を防止することができるが、この場合、誤挿入防止爪 4 の両側のスペース（幅 ℓ ）は、テープカセット 3 の短辺の幅 l よりも小であるから、どの位置からテープカセット 3 を挿入してみても、誤挿入防止爪 4 による誤挿入の防止がなされる。

このように、上記テープカセットのローディング機構 1 は、テープカセット 3 の挿入口の天板 2 a に枢支した誤挿入防止爪 4 が、常時は、挿入されたテープカセット 3 の前面上縁部の進入軌跡中に待機しており、テープカセット 3 に形成された唯一所定幅を超える面取りが施された縁（面取り部 3 a）には係止せず、他の縁については係止して誤挿入を防止する構成としたから、テープカセット 3 の前後又は縦横を間違えて挿入した場合に、かならず誤挿入防止爪 4 がテープカセット 3 の縁に係止して誤挿入を防止することができ、またテープカセット 3 の短辺側を先頭にした誤挿入に対

公開実用 昭和62-7686

しても、天板 2 a の左右のほぼ中間部に設けた誤挿入防止爪 4 が、どの位置からの誤挿入に対しても有効に作用する。

〔考案の効果〕

以上説明したように、この考案によれば、テープカセットの挿入口の天板に枢支した誤挿入防止爪が、常時は、挿入されたテープカセットの前面上縁部の進入軌跡中に待機しており、テープカセットに形成された唯一所定幅を越える面取りが施された縁には係止せず、他の縁については係止して誤挿入を防止する構成としたから、テープカセットの前後又は裏表を間違えて挿入した場合に、かならず誤挿入防止爪がテープカセットの縁に係止して誤挿入を防止することができ、またテープカセットの短辺側を先頭にした誤挿入に対しても、天板の左右のほぼ中間部に設けた誤挿入防止爪が、どの位置からの誤挿入に対しても有効に作用する等の優れた効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

第 1, 2 図は、それぞれこの考案のテープカセ

ツトのローディング機構の一実施例を示す概略斜視図及び要部側面図である。

1…テープカセットのローディング機構、2…カセットハウス、2a…天板、3…テープカセット、3a…面取り部、4…誤挿入防止爪。

実用新案登録出願人 日本電気ホームエレクトロニクス株式会社

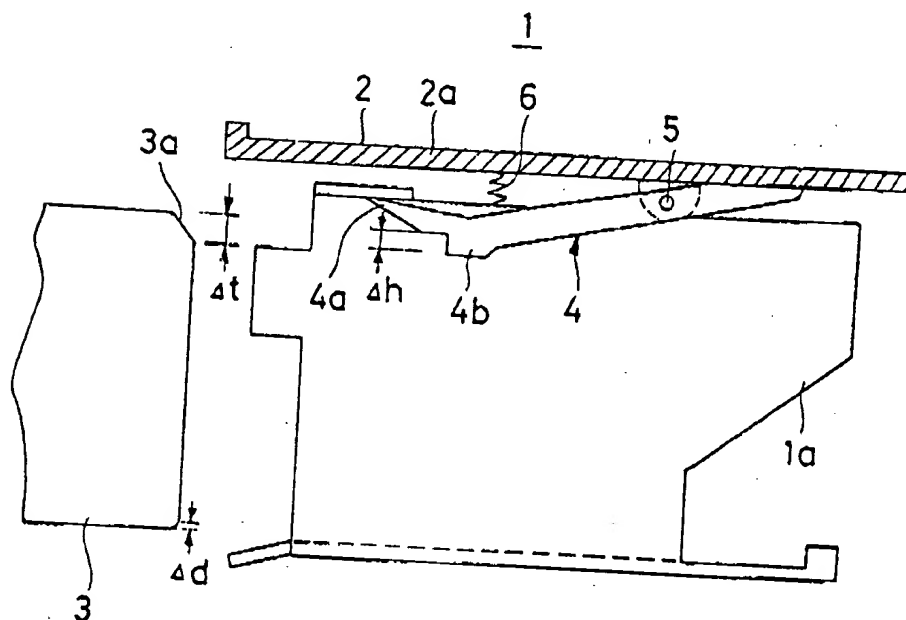
代理人

島田

登



第 2 図



1603

実用新案登録出願人

代理人

日本電気ホームエレクトロニクス株式会社

島田 登

1986